

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-306324

(43) 公開日 平成4年(1992)10月29日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
E 0 2 D 31/06	B	9125-2D		
5/30	Z	7196-2D		
5/34	Z	7196-2D		

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 3 頁)

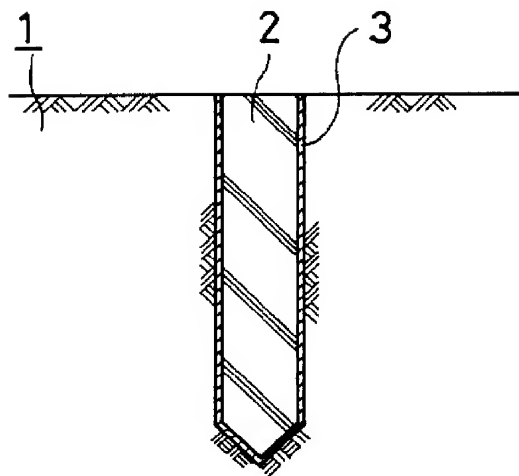
(21) 出願番号	特願平3-94855	(71) 出願人	000166432 戸田建設株式会社 東京都中央区京橋1丁目7番1号
(22) 出願日	平成3年(1991)4月2日	(72) 発明者	平賀 友晃 東京都中央区京橋1丁目7番1号 戸田建設株式会社内
		(72) 発明者	板谷 俊郎 東京都中央区京橋1丁目7番1号 戸田建設株式会社内
		(74) 代理人	弁理士 佐々木 功

(54) 【発明の名称】 基礎杭の防食方法

(57) 【要約】

【目的】 本発明は、長期間に亘り腐食を防止する基礎杭の防食方法を提供することを目的とする。

【構成】 コンクリート杭2の地中埋設部分を、チタン合金もしくはアモルファス合金等の保護カバー3で被覆したこと、である。



1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 コンクリート杭の地中埋設部分を、チタン合金もしくはアモルファス合金等の保護カパーで被覆したことを特徴としてなる基礎杭の防食方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、既製コンクリート杭や場所打ちコンクリート杭に耐食性を付与する防食方法に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、コンクリート杭における、酸性土壌の影響、海洋環境における飛沫帯の腐食の防止や、場所打ちコンクリートを打設する際の地下水の汚染防止を図るには、コンクリート杭の表面に厚膜型の特殊塗装を施したり、有機樹脂の被覆体を設けたりしていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上述の腐食防止方法及び構造では、いずれも長期間に亘る経時的変化で保護層の破壊を免れず何度も修復しなければならず、手間と費用が掛かるものである、と言った欠点が存在した。

【0004】 本発明は、上記の課題に鑑みてなされたもので、長期間に亘り腐食を防止する基礎杭の防食方法を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明の上記課題を解決し上記目的を達成するための要旨は、コンクリート杭の地中埋設部分を、チタン合金もしくはアモルファス合金等の保護カパーで被覆したこと、に存する。

【0006】

【作用】 本発明の方法により、酸性土壌におけるコンクリート杭の耐久性の構造をもたらし、また、コンクリート中からのアルカリ成分の流失を防止し、地下水の汚染を防ぐ。

【0007】

【実施例】 次に、本発明について図面を参照して説明する。図1は、本発明の一実施例の縦断面図であり、1は例えば酸性土壌であり、2は既製のコンクリート杭、3はチタン製防食カパー体、を各々示している。

【0008】 図1においては、予め酸性土壌1に基礎杭用孔をアースオーガ等で穿設する。そして、既製コンク

リート杭2に防食カパー体3を被覆して、これらを前記孔に嵌入させるものである。

【0009】 また、他の実施例として、図2の（イ）、（ロ）に示すように、現場打ちコンクリート杭に適用する場合を説明する。先ず酸性土壌1に例えばベント機（図示せず）を用いてケーシング4を圧入させ、かつ掘削土砂を掘削機で掘削する。そして、ケーシング4の設置が完了したら、有底筒状のチタン製防食カパー体5を前記ケーシング4の内壁に沿わせて嵌装する（図2（イ））。

【0010】 次に、鉄筋籠6をケーシング4内に挿入して、トレミー管7を介してコンクリート8を打設する。この後、ケーシング4を引き抜き、現場打ちコンクリート杭が完成する。コンクリート8と固着せしめられた防食カパー体5は酸性土壌1中に残り、コンクリート8を保護し、耐久性を向上させる。

【0011】 上述の防食カパー体は、チタン製としたが、チタン合金は勿論のこと他にもアモルファス金属やその他の金属など、本発明の目的に沿うものを使用できる。

【0012】

【発明の効果】 以上説明したように、本発明の基礎杭の防食方法は、コンクリート杭の地中埋設部分を、チタン合金もしくはモルファス合金等の保護カパーで被覆したので、コンクリート杭に極めて長期間に亘る耐久性を付与し、その性能も向上させ、地盤や地下水に対するコンクリートによる汚染の心配がなくなる。

【図面の簡単な説明】

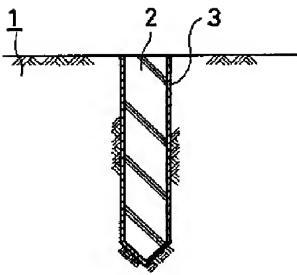
【図1】 本発明の一実施例の縦断面図である。

【図2】 （イ）、（ロ）は本発明の他の実施例に係る縦断面図である。

【符号の説明】

- 1 酸性土壌、
- 2 既製コンクリート杭、
- 3 防食カパー体、
- 4 ケーシング、
- 5 防食カパー体、
- 6 鉄筋籠、
- 7 トレミー管、
- 8 打設されたコンクリート。

【図1】



【図2】

